

ホームヘルプ協力員の食事介護研修プログラムの評価

○三成由美* 徳井教孝** 反田葉子* 森近修子* 楠喜久枝*

(*中村学園大,**産業医科大)

【目的】福岡市においては、平成2年9月に福岡市市民福祉サービス公社が設立され、在宅福祉サービスの担い手となるホームヘルプ協力員の研修終了者は、現在1000人を超えている。しかし、ホームヘルプ協力員に対する研修プログラムは確立していない。そこで、より良い研修プログラムを作成するための第一歩として、これまで実施した食事介護研修プログラムの評価を行ったので、その結果を報告する。

【方法】1.対象者：F市ホームヘルプ協力員で、1994年9月の研修会に参加し、調査協力が得られた者512名。2.研修会時期：1994年9月13.14.16日。3.研修プログラム：2群に分けて実施した。A群；調理品の師範，実習，試食、B群；講義（教材：本研究で作成した調理の基礎編・家庭料理編の小冊子），調理品の師範，実習，試食。4.研修プログラム評価：研修前と研修終了6ヵ月後に食事作りの悩みについて調査を実施。5.解析：研修前と研修終了後の悩みの保有割合の差について、A群、B群で比較した。

【結果および考察】回収率の第1回はA群、B群ともに100%、第2回はA群80%、B群89%であった。研修終了後の調査では、A群において悩みの保有割合の減少した項目は、31項目中12項目あり、調理技術に関する内容であった。一方、B群において減少した項目は24項目であり、調理技術より高齢者の嗜好や食品に関する内容であった。以上の結果より、一回の研修会においても新しいプログラムを受けた群の方が悩みの保有割合が減少した項目が多くあったという事は、このようなプログラムを複数回実施する事で、より効果が上がる可能性がある事が示唆された。